

区内初 寄付金が太陽光発電所に

よこはま動物園ズーラシア（上白根町）に9月16日、市民の寄付金による太陽光パネルが設置され「Y150ズーラシアおひさま市民発電所」と名付けられた。公共施設に太陽光発電システムを市民が設置する活動が各地で見られる中、区内では新たな事例となった。



太陽光パネルが設置された「ころこっジ」の洗面所

これは省エネを推進する市民グループ「創エネ市民プロジェクト」による試み。「ズーラシアおひさま市民発電所設置プロジェクト」と題し、ヒルサイド会場で開催中の市民創発支援プロジェクトとして活動してきた。

た。設置費用はズーラシアの動物絵はがきを制作し、有償頒布で集まった寄付金。ズーラシアはヒルサイド会場に隣接しており、年間約100万人の来場者が訪れることから選定したという。

寄付金は9月時点で150万円に到達。180wを発電するパネル18枚を購入できるほどになったという。園内の設置場所は、冷房がなく屋上緑化を進める「ころこっジ」が選ばれた。設置されたパネルは約3.24kwを発電し、ころこっジが消費する電力の約2割分に相当するという。

自然エネルギー発電設備への助成を行う「グリーン電力基金」によると、公共施設への市民による設備事業は、2008年度に神奈

川県内で3件あった。今回のズーラシアでのプロジェクトもそれに当たるが、徳留佳之代表は「助成を受けず、全額寄付金による設置は特徴的」と話す。徳留さんは「市民の協力がなくし

てはできなかった。取り組みへの理解が得られたのは」と活動の手ごたえを感じている様子だった。「ズーラシアは、環境に優しい動物園として喜ばしいこと」としている。